



民主 苫小牧号外
2026年
10.4
No.1159

日本共産党市議会議員



小野寺ゆきえです！

ホッキー君が活躍する市場の実現を

決算委員会に臨むため、企業会計の1つである卸売市場会計について調べていると、色々なことが発見できました。まず有名なのはホッキ貝。苫小牧は、ホッキ貝の漁獲量が日本一だということは、みなさんもお存じだと思います。実は、漁獲量日本一は“25年間”も続いていたのです。漁師さんのご苦労の賜物ですね。

そして、苫小牧のホッキ貝を使ったホッキカレーも有名で、昨年は文化庁の『100年フード』の“未来の100年フード部門”に選ばれました。『100年フード』は、食文化として次世代につないでいくことを目的としており、22年にはカレーラーメンも選ばれています。ということで、ふるさと納税の返礼品のなかで、“ホッキ貝お礼の品ベスト1”にもホッキカレーが選ばれています。

しかし、こんなにホッキ貝が有名なのに、苫小牧の貝イメージマスコット“ホッキー君”の存在は知られていません。以前は、市営バスにも描かれていたんですよ。苫小牧といえば、すっかり“とまチョップ”が有名になり、漁港や市場をPRする役割も“ホッキー君”から奪ってしまいました。

みなさん、なんと“ホッキー君”は宮城県山元町にもいました。山元町はホッキ貝が特産品だそうです。そして、PRのために“ホッキー君”の着ぐるみイベントに参加したり、“ホッキー君”グッズも販売しています。漁獲量日本一の“ホッキー君”にも活躍してほしいです。“ホッキー君着ぐるみ”の作成もしたいですね。

市場といえば『ぷらっと港市場』が人気です。道の駅ウトナイ湖よりも来客数が多いんですよ。もしかしたら“苫小牧の顔”は『ぷらっと港市場』かもしれません。しかし、老朽化から建て替えの検討が開始されます。古いのは青果棟も水産棟も同じ。私は、『ぷらっと港市場』と青果棟・水産棟も一体で再整備をし、市民や観光客が楽しめる空間をつくり、函館の朝市のように新鮮な魚介や野菜が堪能できる市場にしたいな～と思います。

決算の結果、市場会計は単年度収支が黒字の健全会計です。しかし、生鮮食品は人口減少のために消費量が落ち込み、ネット販売の利用も増えているので、将来的に厳しい会計になると思います。だからこそ、賑わいを生み出す市場が必要だと思います。